ASEAN グローバルプログラムに参加して

鷹　野　太　祐
Taisuke TAKANO
物質化学科　２年

1. はじめに

2019 年 8 月 27 日から 9 月 5 日の 10 日間にかけて，ベトナムのハノイ，シンガポールで行われた ASEAN グローバルプログラムに参加した．そのプログラムの具体的な日程は，下記の表に示す．

表　**ASEAN グローバルプログラム日程**

8/27	ハノイ到着 オリエンテーション
8/28	企業訪問，見学
8/29	PBL 活動
8/30	PBL 活動，発表
8/31	ベトナム観光，自由時間
9/1	シンガポール到着 WASABI 講演会
9/2	南洋理工大学（講義，研究室見学）
9/3	企業訪問 ビジネスパーソン講演・交流
9/4	自由時間
9/5	帰国

2. 参加目的

私が，ASEAN グローバルプログラムに参加した理由は 2 つある．1 つ目は，普通の海外旅行では経験できない企業見学や PBL 活動などがあり，自分が成長する経験ができると見込めたからである．企業見学を通して海外ではどのような人材が要求され，どのような人が働いているのかが見えればいいなと思ったから，ということもある．全体的には，これからの大学生活においての目標を日本に持って帰れたら，と考えていた．2 つ目は，東南アジアという特殊な文化を体験したかったからである．私は海外旅行に行くことがよくあり，異文化に対してとても興味があった．その国での価値観や食文化の違いを実際に体で感じ，自分の世界に対する視野を広げることで面白い視点で物事を見られるようになると考え，応募した．

3. 研修内容

3.1　PBL 活動

ASEAN グローバルプログラムのベトナムでの活動で私が一番楽しみにしていた PBL 活動のことについて報告する．この活動では，ベトナム人学生と交流しながら共同でアンケートを作成し，鈴木栄光堂さんの塩レモンキャンディーをどうすればベトナムでヒット商品になるのかを探った．

事前学習で仮説をたくさん立て，質問を考えてベトナムに行ったが，簡単には進まなかった．まず苦労したことは言葉でのコミュニケーションである．学習していったとはいえ，普段から慣れていない英会話を実践することがとても難しかった．しかし慣れてくると，ジェスチャーなどを使いながら話し合いができるようになった．が，さらに苦しめられたのが，ベトナムと日本の考え方の違いであった．考えていた仮説とは全く逆だったり，新たな意見が出てきたりしてうまくまとまらず，日本人だけで話し合ったこともあった．しかしその反面，こんな風に思っていたのだとか，日本とはここは同じなのだというような価値観の違いなどを目の当たりにでき，

写真 1　PBL 活動中の英語での発表後の授賞式

とても面白いと感じた．

私たちの班では最終的に企業に売り込んで知名度を上げるという結論を出した．他の班では日本の市場と同じに考えてはダメというような，すごいと感じるアイデアも出ていて刺激になった．私たちの班は，英語で発表の時に賞をもらえた．PBL の最後に日本語で実際の企業さんに発表する機会があり，実際にその仕事をされているプロの方達からのコメントが頂け，貴重で自分の考えよりもさらに深く考える必要があることを学べた．

写真 2　Google 社での集合撮影

3.2　Google 社訪問

世界で知らない人はいないであろう Google 社を訪問したことについても報告する．この訪問では，社内の食堂で朝食をいただくとができ，その後に Google 社で働いておられる日本人の方のプレゼンテーションを聞かせてもらった．Google は検索エンジン，オンライン広告，ソフトウェアなどのインターネット関連のサービスと製品に特化した世界規模のテクノロジー企業であって，世界中の情報を整理し，世界中の人がアクセスできて使えるようにすることを使命としている，とのことだった．食事の時に社員さんを見ると，たくさんの国から集まっている人であることがわかり，さらに英語を話していたので，世界的な企業は格が違うなと刺激を受けた．そして私もたくさんの異文化が混じっている所で働いてみたいという憧れを抱いた．

4. おわりに

今回の ASEAN グローバルプログラムに参加して自分に足りないものやこれから必要になると思われるものが少し明確になった．それは，例えば積極性と物事を深く見るということである．積極性に関しては，今回のプログラム全体を通して思ったことであって自分からどんどん質問や話しかけたりしないと，相手は何も教えてくれないし，相手が話そうとしていたことしか聞くことができないと思った．物事を深く見るということに関しては，1 つの行動に対してそれをするためには，何が必要でどのような方法でするのかなどと物事を掘り下げて考えるということである．そうすることで，自分がどう行動したいのか，すべきかが明確になるから重要だと思う．この考え方は今後の学生生活や学び・研究活動に大切になってくるだろうと考える．

最後にこのプログラム全体を通して大切だったと感じた物は英会話である．全く通じず，苦労した上に，同い年のベトナム人学生は淡々と話していることに悔しさでいっぱいであった．グローバル化が進む中，英会話ができて損はないので英会話をもっと勉強しようと考えている．とてもいい刺激だらけの 10 日間の研修では自分の無力さを痛感した．が，それにより，これからの大学生活を自分の成長のための有意義な時間として使っていきたいと思えるようになった．